

第 16 章 仲間がいることを伝えていきたい

東北全域・ろう LGBT 東北 (DEAF LGBT TOHOKU)

及川政伸 (まーくん) さん



実施日：2019 年 7 月 13 日 聞き手：杉浦郁子・内田有美

実施場所：仙台市内の喫茶店

【プロフィール】

1981 年、岩手県北上市生まれ (インタビュー時 37 歳)。2017 年 4 月 8 日「ろう LGBT 東北 (DEAF LGBT TOHOKU)」の新代表に就任。岩手県在住。公務員。

1. 活動に参加するまで

◆男性への興味

男性に興味を持ち始めたのが、小学 2 年くらいだったと思います。たまたま H 本を見つけて、男性の裸体を見て「かっこいい」と性的な魅力に惹かれていました。女性の裸体は全然興味ありませんでした。

また、小学 4 年生の時にクラスの男子や教育実習の先生が「好き」という感情を持ちはじめました。小学時代は「男性が好き」が変だと思いませんでした。

自分の性的指向が周りと違うと気づいたのは、中学 1 年の時だったと思います。同級生が女子のことで話題が盛り上がっていました。あの子が可愛いとか。その頃は性的指向の知識や性自認の情報が全くなく、ホモとかおかまとか差別がまだ根強い時代でしたので、戸惑っていました。それに漫画の中でも、ホモやおかまは気持ち悪い描写があり、激しい偏見が植え付けられていました。男性が好きだということが周りにバレたらいじめられると思い、誰にも相談できずにいました。

高校 1 年の春、部活を始めるとき、吹奏楽部の顧問から「吹奏楽部に入らないか」と誘われました。超ストライクな顧問に惚れ恋に落ちた。「耳が聞こえないし、音がわからないから無理」と断りましたが、その顧問の先生から「トロンボーンなら大丈夫！」と熱心に勧められたので、吹奏楽部に入部しました。トロンボーンは音のポジションが決められていたので、それを身体に叩き込んだり、チューニングという機械を見て音を判別していました。何より、指揮を取る顧問を見れたり、先生から指導してもらったりして一緒にいられるのが嬉しかったですね。私の耳の聞こえないことは関係ない、気にしないということが何より嬉しかったです。顧問は産休の代理の先生でしたので 2 年間しかいられず、神奈川に帰ってしまいました。その時、顧問に「好きでした」という気持ちを手紙にしたためましたが、渡すこと

さえできず、気持ちを伝えられなかった。号泣して儂い初恋は終わってしまいました。今となってはいい思い出です。

◆つながっていたのは「聞こえるゲイ」だけ

大学生の頃、ゲイの出会い系掲示板で出会った人に誘われて、盛岡市でゲイのパレーボールクラブに参加しましたが、盛り上がっている会話になかなか入れず、引いてしまって……。結局そのコミュニティは2回参加するだけで終わりました。

出会いの機会はありませんでした。すでにインターネットのゲイの出会い系掲示板がありましたし、ゲイバーにも行きました。出会い系の掲示板を通じて、聞こえるゲイのつながりはあったんです。今までお付き合いした人は全員、聞こえる人でした。ですから、「岩手では、ろうでゲイなのは私だけ？」と思いました。ろうの東北大会や全国大会に参加しても、当事者に会ったことはなかったです。

仕事の転勤で久慈市にいた20代後半は、ゲイであることが周囲にばれるのが嫌で、ノンケのふりをしていましたが、心が折れそうでギリギリな日々でした。男性と付き合っているけど、彼女がいると誤魔化し言うしかない。パートナーのことを表に出したいのに、出せないのがつらかったです。ろうであること自体がマイノリティですし、さらにゲイというダブルマイノリティの苦しさを感しながら心のシャッターを下ろし、一時連絡を絶っていました。当時の精神状態を考えると、今こういうふう活動しているのが不思議なぐらいです。

◆「ろう LGBT 東北」との出会い (2015年7月)

2015年7月11日から12日に、岩手県一関市で「第41回東北ろうあ青年研究討論会 in 岩手」が開催されました。そのときに、「ろう LGBT 東北」の代表だった泉之介君が、「ろうの LGBT 団体を東北で発足させました」と PR したんです。それで、「ろうで LGBT なのは私だけじゃない」ということを初めて知りました。

この大会の後の交流会で、泉之介君に「実は俺もそうなんだ」と声を掛けたんです。隠れたところでこっそり「男性が好きなんだ」という話をして、それから連絡を取り合うようになり、イベントにも参加しました。

◆「OUT IN JAPAN」の撮影会に参加 (2016年3月)

泉之介君から「一緒にどうだ」と誘われて、「OUT IN JAPAN」の撮影会に参加しました (2016年3月21日、仙台)。「いやいや、俺は怖い」と一度は断ったのですが、彼の押しに負けました。それに、隠れたままでいるのでは何も変わらないと思い、決意して、腹をくくって参加しました。本当に緊張しましたし、かなり動揺もしましたが、「OUT IN JAPAN」でカムアウトをしたわけです。

「周りからどういう反応をされるのだろうか」とか「批判されたり、排除されたりするのだろうか」と想像すると怖かったです。でも、秀人君 (「ろう LGBT 東北」メンバー、本冊子にインタビュー掲載)、泉之介君という仲間の存在が大きかった。彼らがいたから「OUT IN JAPAN」に出ることができました。

自分の写真を受け取ったあと、Facebookにそれを載せるかどうか、しばらく悩みました。「見る人は限られている、出してしまおう」「いや、やっぱりやめよう」と迷いました。Facebookでつながっているのは、ろうの知人が多いです。写真には、自分の思いを文章で寄せてあるのですが、文章まで読んでくれる人は多くない。それを読んでもらいたくてFacebookに載せたかったんです。でも、載せたあと、みんなからの反応が怖くて、Facebookを覗くことができなかつた。写真と文章を投げ捨てたような感じでした。

でも、反応は良かったんです。「かっこいいね」とか「そうだったんだ。知らなかった」というような反応でした。「気付かなかつた」「今まで隠していつらかつたね」という反応で、否定的な反応はなかつたです。心配損でした。「投稿して、その後は見ない！」とドキドキしたのが無駄だったぐらい。写真に寄せた文章には、自分の正直な気持ちをストレートにつづりました。「ありのままで生きたい」という気持ちをそのまま文章に込めました。その気持ちが通じたのか、皆がわかってくれたようでした。

「第42回東北ろうあ青年研究討論会 in 宮城」(2016年7月30日、31日)は鳴子であったのですが、そこで泉之介君がLGBTをテーマに講演をしました。彼がLGBTに関する用語を説明したあと、秀人君と一緒に当事者として舞台上がり、泉之介君からの質問に答えるかたちで、自分の体験を話しました。最初、参加者たちは「何で彼らが舞台上がるんだ」とびっくりされたと思うのですが、そういうふうにして、少しずつ顔を出していきました。



第42回東北ろうあ青年研究討論会 in 宮城

2. 「ろう LGBT 東北」での活動

◆代表を引き受ける

2016年の11月に、「ろう LGBT 東北」が主催者になって「第2回ろう×セクシュアルマイノリティ全国大会」を仙台で開催したのですが(2016年11月12日、13日)、それが終わった後、少ししてから泉之介君が代表を降りることになりました。秀人君も転勤で仙台を離れることになっていて、次の代表がいない状態になってしまったわけなんです。

秀人君から代表候補として見られたときには、私は視線を外したいぐらいの気持ちだったんですけど、彼が「イベントのときは、帰ってきて手伝う」と約束してくれたので、引き受けることにしました。

覚悟を決めて代表になったのは、2017年4月8日ですが、それ以降、秀人君はその約束を律儀に守ってくれています。彼がいないとやっぱり大変なんです。聞こえるLGBT団体とのパイプも秀人君が持っていて、私にはなかつたです。秀人君に聞こえる団体のこ



第2回ろう×セクシュアルマイノリティ全国大会で司会を務める

とを教えてもらいながら、少しずつやりとりをして、イベントに呼んでもらったりブース出展をしたりしながら、活動の幅を広げていっています。そんなふうにパイプ作りをして、何とか活動しているところです。

恵まれているほうだと思うのですが、活動をしていて、直接に批判をぶつけられたことはないです。裏ではあるのかもしれないし、忘れていただけなのかもしれませんが。都合の悪いことはけっこう忘れるから(笑)。秀人君とビデオ通話やLINEで日々やりとりをしていますし、そこで愚痴や悩みも吐き出せるので、あまりため込まずに済んでいると思います。

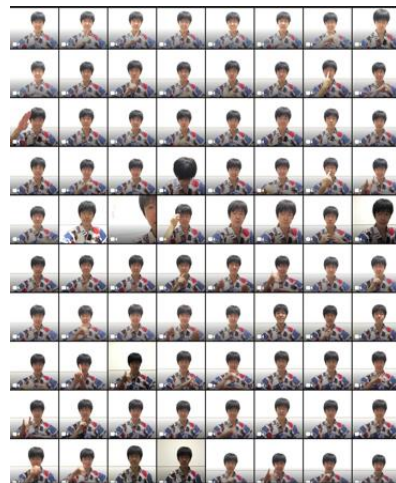
でも、まさかこんなに続くとは思わなかった。途中でこけるんじゃないか、と思っていました。岩手県聴覚障害者協会の理事や青年部の監事も務めているので、なかなか活動の両立が難しいのですが、青年部の皆さんも私がゲイであることを理解してくれています。周囲の理解がなければ、こんなふうに活動することは難しいですし、秀人くんやメンバーの助けがなければ、自分はたぶん倒れているか、いなくなっていたと思います。

◆手話でネット配信

企画を考えたり、告知や募集をしたりするのは、秀人君です。彼は、いろいろなイベントで情報を得ては、「こういうのが面白そうなんじゃないか」と提案や企画を立ててくれます。東京は、やはりイベントがたくさんありますし、得られる情報も多い。それらを参考にして、秀人君が発案してくれて、私はもう操り人形のように彼の手となり足となり、ただ単に言われた通りに動いているだけです(笑)。彼の企画力や発信力は、頼もしいです。

団体のウェブサイトに掲載している手話の動画は、撮影した後にデータを秀人君に送って、確認をしてもらっています。時には「こういうふうな内容にして」というダメ出しが来ます。1分ぐらいの動画を作るのに、2時間、3時間ぐらいは優にかかります。「あ、間違った、取り直し」とNGを頻発して、150ぐらいの没動画を作ったこともありました。

YouTube や Facebook で顔を出して発信をし始めて、生活が変化した、ということは、とくにないですね。仲良くしたいとか、仲間になりたいという連絡もないですし、モテたりするというものもないです。岩手は遠くて、ちょっと手を出せないのかな(笑)。



手話で配信、150の没動画を作ったことも

◆仲間探し

「ろう LGBT 東北」のイベント参加者で「今日初めて来ました」というろう当事者はほぼいません。基本的に、顔ぶれはあまり変わらないですね。

ただ、アライは多くなりました。それから、表ではアライとして活動している当事者が、3人ぐらいいますね。ばれたら困る人たちです。私たちも、「かれらはカミングアウトをしない」ということを理解したうえで、一緒に活動しています。

裾野を広げていくことの難しさは感じてます。たくさんの仲間がほしいというのは、活動

をしている人の共通の思いなのでしょうが、限界を感じます。聞こえる仲間は増えました。でも、聞こえない仲間はなかなか増えないですね。実際、東京に流れていく人も多いですし、それを引き止めることもできないのが現状です。日々、限界を感じているところです。

以前は、様々なろうあ者大会に参加している人で、「この人、ゲイかな」と思う人に話しかけていたんです。話し方や振る舞いがオネエだからといって、ゲイだというわけでもないのですが、アンテナを張って、ゲイの仲間探しをしていました。自分のアンテナに引っかかる人に聞いてみて、「いやノンケだ」と言われて、振られたこともたくさんあります。今ちょっとアンテナが壊れているのかもしれないのですが(笑)、やっぱり見極めは難しいです。

聞こえる、聞こえないにかかわらず、「初めて会うな」という人はいます。「今まで見たことがないな」という人に話を聞いてみると、「東京で仕事をしていたけれども、理由があって東北に引っ越してきた」「実家に戻ってきた」というケースがほとんどです。でも、数としては多くないですよ。

LGBT だけでなく、様々なろうあ者の大会に入り込んでいけば、もう少しつながれる人も増えるのかな、と考えています。ろうあ協会に入っていない人、非会員だけの集まりがあるのですが、そことのつながりが持っていないのが課題です。

でも、「ろう LGBT 東北」のイベントと、ろうあ協会のイベントが重なってしまうことがあって、そうすると、ろうあ協会のイベントが優先されるので、LGBT のイベントのほうに人が来ない。当日ふたを開けてみたら参加者が少なく、どうしてなんだろうと思うと、日程が重なっていたこともあります。秀人君と日程調整をして決めた日に、自分たちが知り得なかった行事、たとえばろうあ者大会の実行委員会のような行事があったりしたこともありました。

3. 「東北」という活動範囲

◆東京への流出

東北で仕事を持ちながら生活をしているろうの人たちは、そんなに多くないかな、と思います。三交代の工場勤務の人はけっこういますけど、事務職を希望する人が多いことを考えると、思い通りの仕事に就いている人は多くないです。東北は、仕事が少なかったり、賃金が安かったりするんで、東京に出たいという人もたくさんいます。「ろう LGBT 東北」の活動に関わってくる中で岩手県出身のろうの人が他にもいたのですが、何人か、東京に行ってしまいました。やはり東京のほうが住みやすいので、流出してしまいますし、東京にはたくさん当事者がいます。

結婚しなきゃいけないとか、親の世話をしなきゃいけないとか、ばれたくないといったことは、聞こえるゲイと同じですね。東北では、聞こえるゲイも、ばれたくないと思っている人が多いと感じます。東京にみたいにオープンではない。東京だと、同性同士で手をつないで街を歩いたりできるのかもしれませんが、東北だとなかなかできないですよ。男同士で

街中を気軽に歩けないですし、どう見られているのかも気にしますし。異性同士でも、そもそも手をつないで歩きにくい、ということもあります。

でも最近では、あまり気にしないで街を歩けるようになってきたと思います。以前は恥ずかしかったけれど、秀人君となら友達として仲良く手をつなぐのも慣れてきた。友達というより兄弟みたいな感覚かな。「友達以上、何未満だろうね」みたいな、そんな関係です。

同性同士で一緒に手をつなげる社会になればいいな、と思います。でも、その前にパートナーを見つけないと(笑)。



同性同士で手をつなげる社会に

◆仙台以外の地域へのアプローチ

「東北」というくくりは大きすぎますが、それでも活動範囲は宮城県ではなく、東北にしておきたいです。仙台には当事者がそれなりにいますが、岩手県は私だけ。他の地域には、いるのかいないのかもわからないんです。私たちの発信力が足りなくて情報が行き渡っていないのか、それとも活動をしたと思ってもなかなか踏み出せないのか……。

イベントは仙台で開かれることが多いのですが、同じ東北でも、遠くの人参加しにくいと思います。新幹線代や移動時間がネックになる。東北の地理的な要因もありますね。

「カムアウトしたあとの周りの反応が怖い」ということや「カムアウトできるほどの知識がなかった」というのは、私自身、体験しているのでわかります。それに、ろうのうわさネットワークの威力も知っているので、そこで思いとどまっている人たちは、たくさんいるんじゃないかな、とは思っています。それでもこっそり「自分もそうだ」と伝えてくれる人がいて、そういう人には「イベントがあるよ」と伝えていますが、参加するところまでには至らなくて、こじ開けるのはなかなか難しいですね。

「ろう LGBT 東北」が立ち上がって5年。少しずつ認知も広がってきたのではないかとと思うんですが、「ろうの中にも LGBT がいるんだ」ということを知っても、一歩を踏み出せない人がいる。そういう人たちにどうアプローチしたらいいのか、ということは、秀人君と2人で悩んでいるところです。

ただ、それは、聞こえる人も同じなのではないかと思っています。LGBT 団体があることを知っていたとしても、自分はその団体とは関係ないんだと思う人がいたり、ただ単に楽しく遊べる時間があればいいと思う人はいる。そういう層にどう働きかけていくかは、共通の悩みなのでは、と思います。何がきっかけになるかは、わからないので、試行錯誤しながら、駄目だったらまた違う手を打っていく、というふうにやっていくしかないです。

◆今後の活動

先ほども言ったとおり、「ろう LGBT 東北」は立ち上げて5年になりますが、出てきたかと思ったら引込んでしまうような人もいます。少しずつでも活動をしていって、「仲間がいるんだよ」ということを伝えて、安心できる環境をつくっていききたい。仲間を増やしてい

くためには、カミングアウトをしなくても裏でつながっているような安心感を作っていくのが必要なのかな、と思います。安心して話せる場、ありのままでいられる場を作りたいです。

社会の変化に合わせて、少しずつ活動を変化させていって、最終的には、この「ろう LGBT 東北」という団体が要らないぐらいの社会になってほしいですね。異性婚と同性婚という概念がないぐらいの感覚、江戸時代のように、概念によって縛られることがないような社会になってほしい、というのが願いです。

また、聞こえないだけで排除されることのない社会、排除される痛みがない社会になってほしいと思っています。言うのは簡単ですが、実現するのは容易ではないですよね。でも、夢は大きく、というのは大事なことです。この信念とともに続けていきたいと思っています。



仲間と共に